

**實吉研究主任（さけます資源部）「平成 29 年度日本水産学会北海道支部大会最優秀講演賞」受賞！**

12月9日（土）北海道大学で開催された日本水産学会北海道支部大会でさけます資源部の實吉隼人研究主任が最優秀講演賞を受賞しました。発表演題は實吉隼人・越野陽介・青山智哉（さけます内水試）・楠田聡（網走水試）・鈴木慎（渡島さけます増協）・宮腰靖之（さけます内水試）による「北海道えりも以西道南地区におけるサケ稚魚の放流時期の検証」です。

サケは増殖事業によって資源を造成してきましたが、増殖事業の現場では、沿岸における稚魚の生残を高めるために、沿岸水温が 5℃を超える時期を放流開始の目安としています。しかし、津軽暖流の影響を受ける北海道えりも以西道南地区では年間の最低水温が 5℃を下回る年が少なく、放流時期の判断が難しい状況にあります。そこで、2013年と2014年に道南地区の知内川において放流サイズは同じでありながら放流時期が異なる稚魚を標識放流し、その後の稚魚の分布や沿岸環境および回帰率を調査しました。その結果、2013年の放流群では4月放流群が3月放流群の約1.5倍、2014年では4月放流群が3月放流群の約5倍の標識稚魚が沿岸で発見されました。このことから、この地域におけるサケ稚魚の放流は3月よりも4月が効果的で、放流時期の沿岸の低水温は回帰に負の影響を与えることが示唆され、サケの増殖事業を運営する上で、沿岸の水温をモニタリングしつつ放流時期を決することが重要であることを示しました。

現在、北海道におけるサケの来遊数は減少傾向にあり、その原因や対策を検討する上で非常に有益な研究成果が得られたことが評価されました。



左端は實吉研究主任，中央が安井支部長  
右は最優秀学生講演賞を受賞した黒田さん（北大院水）